

報告書（概要版）

令和7年度

青森県男女共同参画 に関する意識調査

調査の目的と実施方法

■調査の目的

この調査は、男女共同参画に関する県民の意識や実態を把握し、次期（第6次）あおり男女共同参画プランの策定の基礎資料とするとともに、今後の男女共同参画社会の実現に向けた施策の参考資料とする。

■調査対象

県内に在住する満18歳以上の男女 2,400人

■調査項目

- (1) 男女平等に関する意識
- (2) 家庭における役割
- (3) 女性の活躍推進
- (4) 仕事と生活の調和
- (5) 育児休業・介護休業
- (6) 性別役割分担に関する意識
- (7) 防災・復興
- (8) 配偶者やパートナーからの暴力
- (9) 性的マイノリティについて
- (10) 男女共同参画に関する行政への要望

■調査期間

令和7年10月1日から10月17日まで

■回収の状況

有効回答数（率） 868人（36.2%）

		令和7年度	令和2年度 (前回調査)
有効回答数(率)		868人(36.2%)	852人(42.6%)
性別	女性	53.2%	54.7%
	男性	42.4%	43.8%
	答えたくない	2.8%	0.8%
	性別不明	1.6%	0.7%
年齢	18～19歳	2.4%	(調査対象外)
	20～29歳	9.7%	7.5%
	30～39歳	14.3%	11.3%
	40～49歳	17.3%	16.1%
	50～59歳	19.8%	19.6%
	60～69歳	19.5%	23.2%
	70～79歳	12.0%	16.7%
	80歳以上（前回調査 80～89歳）	3.1%	4.3%
	（前回調査 90歳以上）	（選択項目なし）	0.4%
	年齢不明	2.0%	0.9%

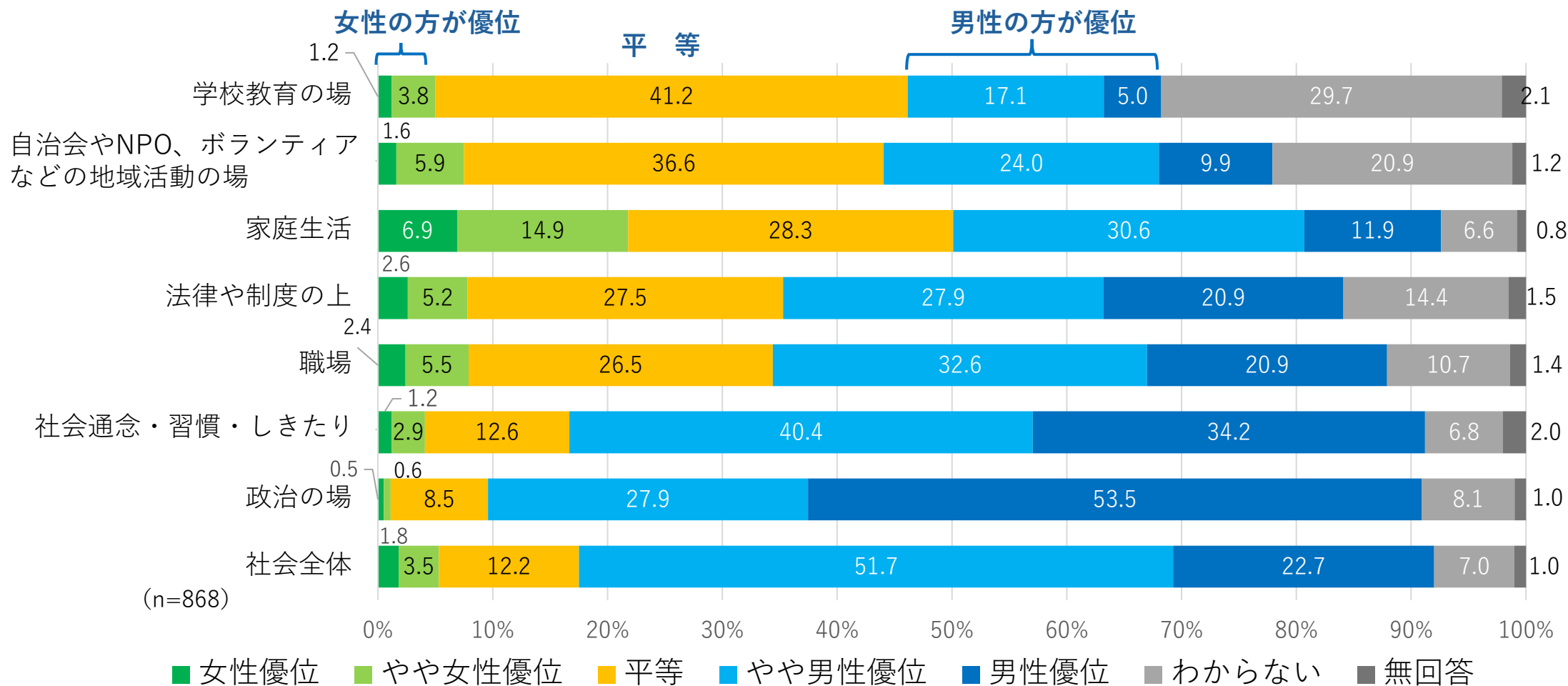
1 男女平等に関する意識

男女の地位の平等感

本体 p5~21

社会全体では「男性の方が優位」と感じる割合が依然として高く、特に「政治の場」や「社会通念・習慣・しきたり」の分野で顕著となっている。

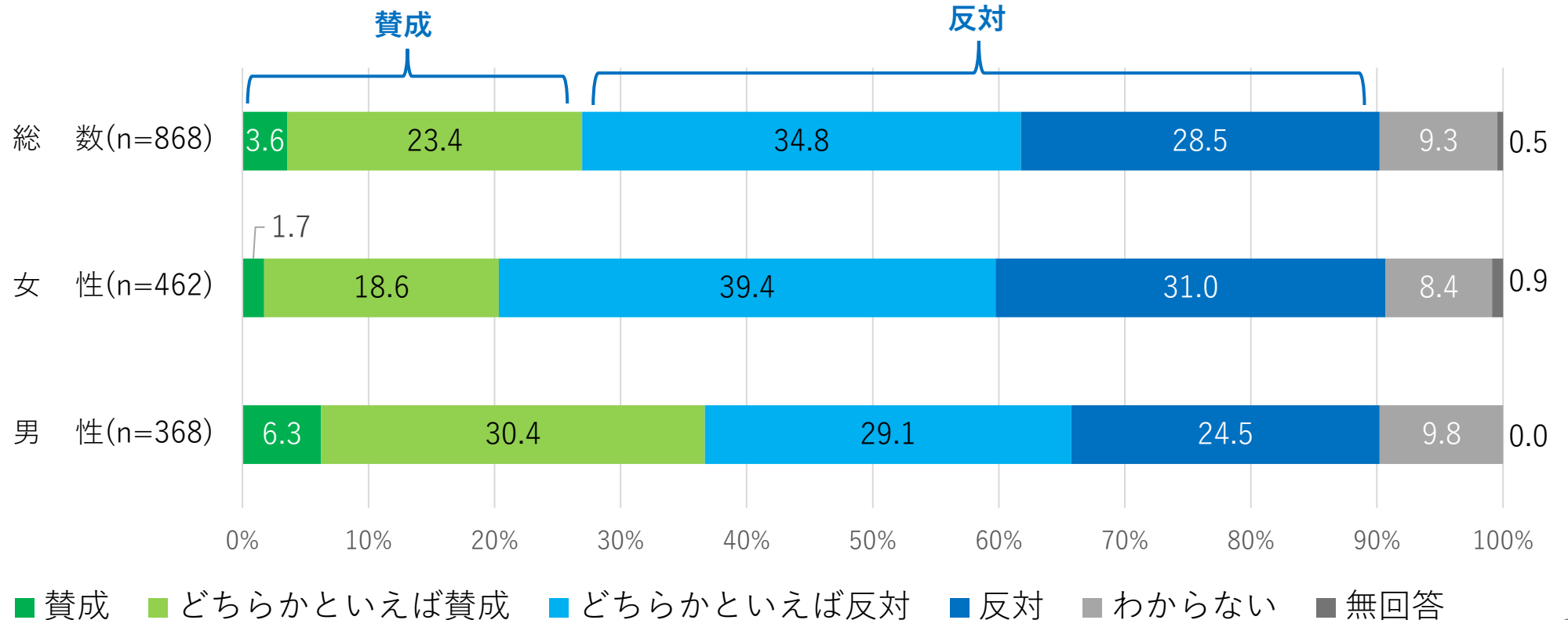
各分野における男女の地位の平等感



「妻は家庭を守り、夫は外で働く」という考え方への意識

「妻は家庭を守り、夫は外で働く」という考え方に**反対**（「**反対**」+「**どちらかといえば反対**」）する人の割合は**63.2%**で、女性の方がより高い傾向にある。

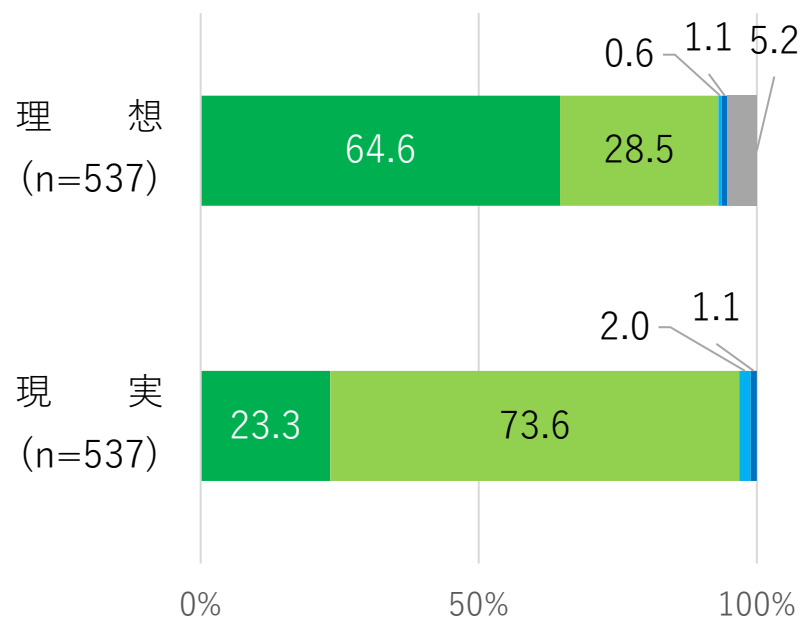
家庭における役割に係る意見



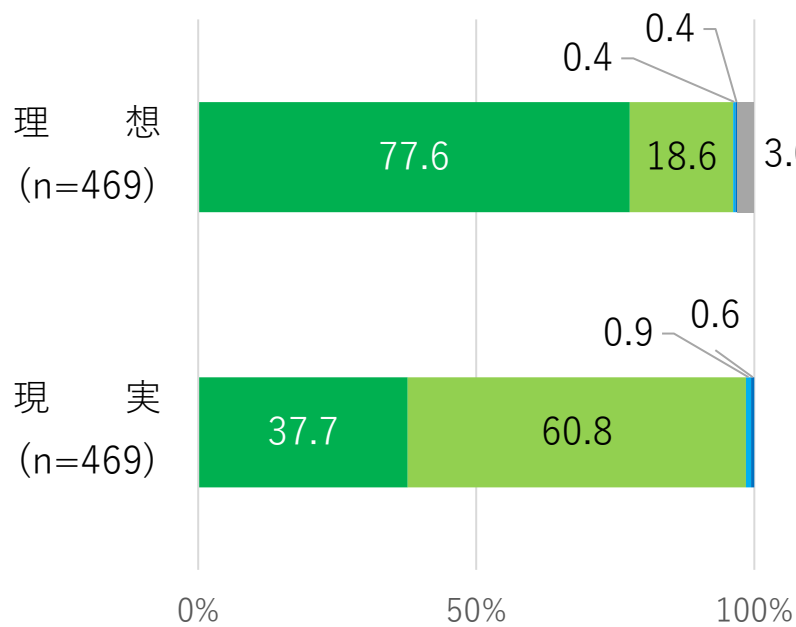
家庭での役割分担 ～結婚している人の理想と現実～

家事、育児、介護ともに理想は「夫婦で同程度」が最も高いが、**現実**は「主に妻」が担う割合が高くなっており、**理想と現実**に大きな差がみられる。

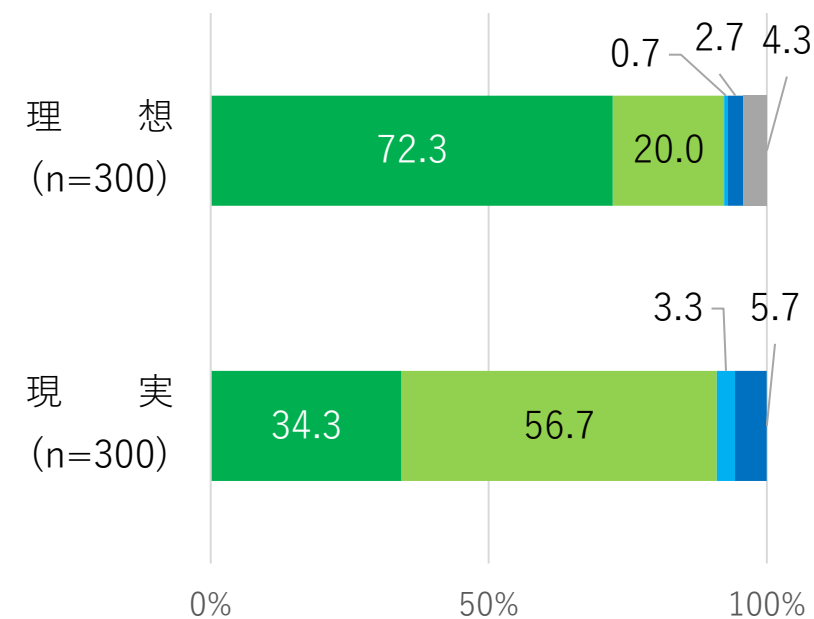
家事の役割分担



育児の役割分担



介護の役割分担



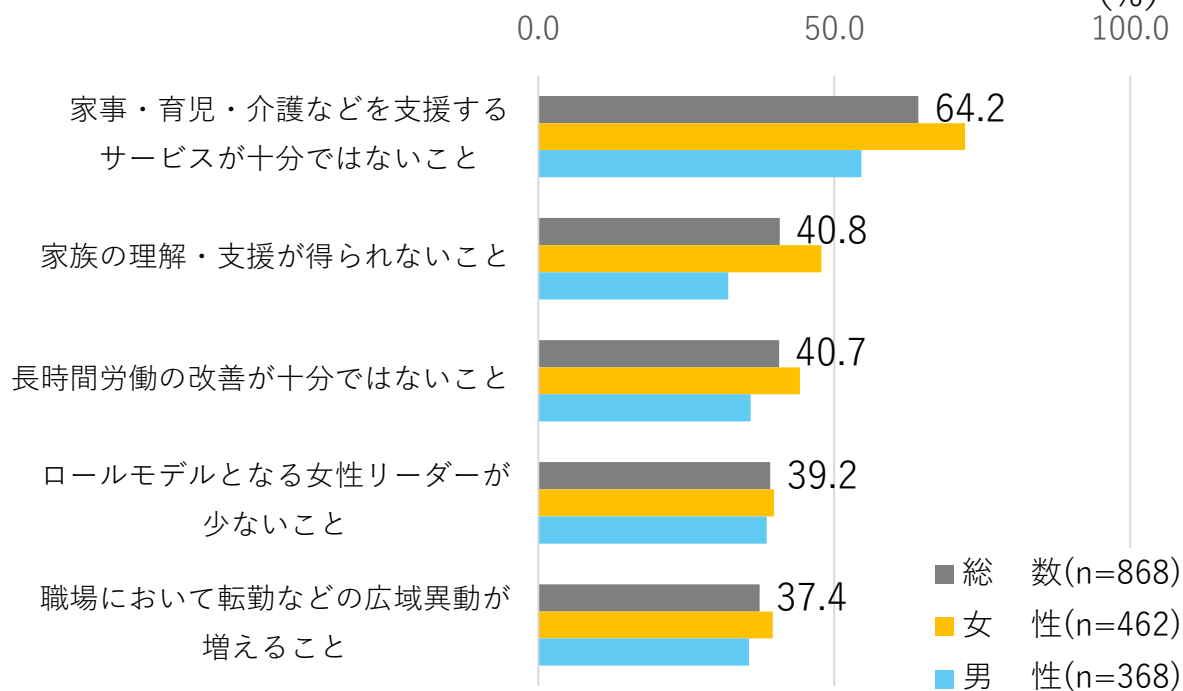
3 女性の活躍推進

女性の活躍を進めるに際しての障害と女性が働き続けるために必要なこと

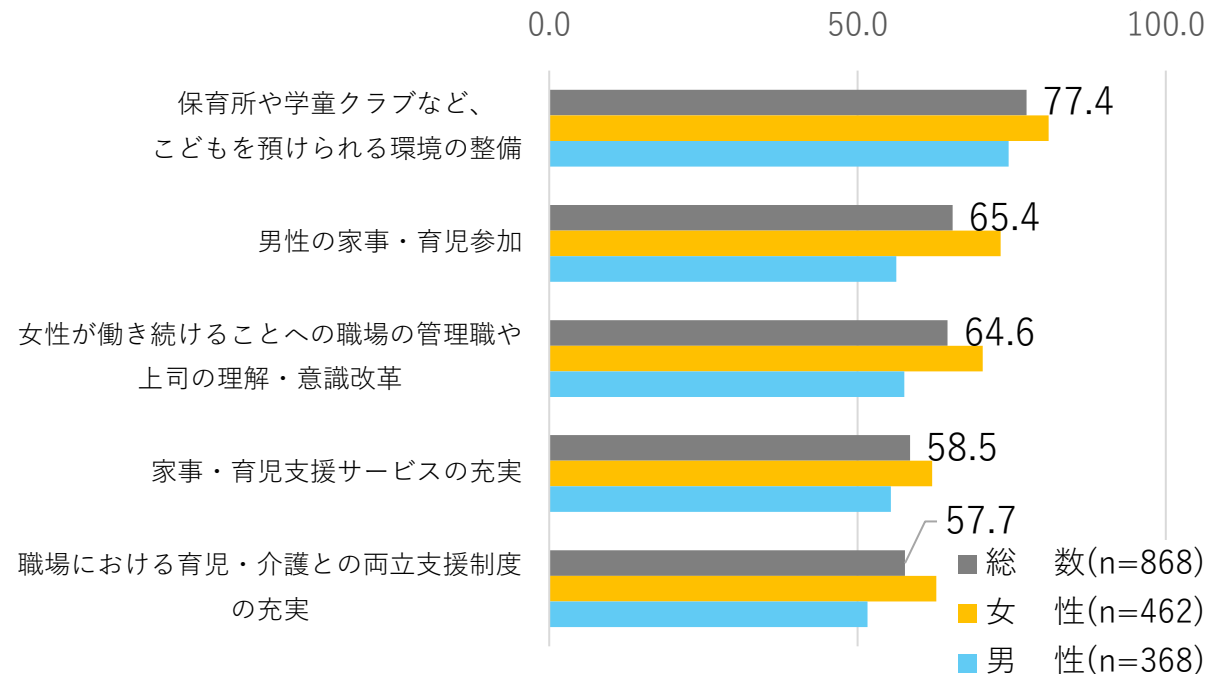
本体 p35~38

- 女性の活躍を進めるに際しての障害として、「家事・育児・介護などを支援するサービスが十分ではないこと」、「家族の理解・支援が得られないこと」、「長時間労働の改善が十分ではないこと」などがあげられた。
- 女性が働き続けるために家庭・社会・職場において必要なこととして、「子どもを預けられる環境の整備」、「男性の家事・育児参加」、「職場の管理職や上司の理解・意識改革」などがあげられた。

女性の活躍を進めるに際しての障害（上位5項目）（%）



女性が働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なこと（上位5項目）（%）

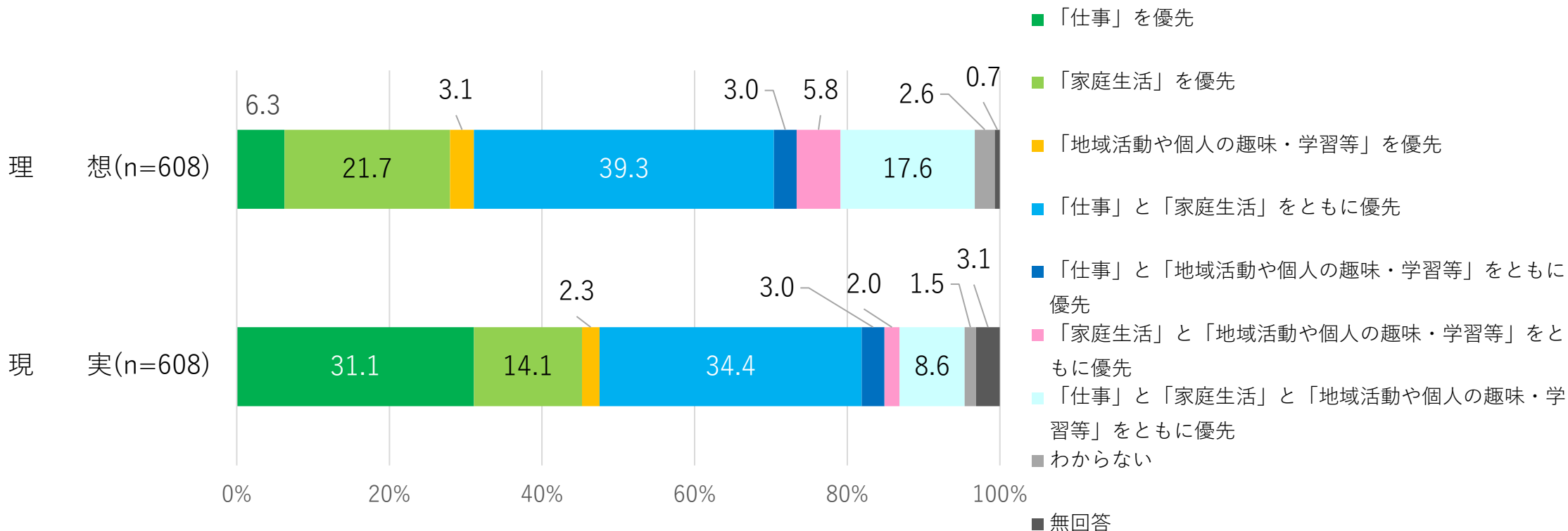


仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度 ~現在仕事をしている人の理想と現実~

「「仕事」を優先」のみ、現実が理想を大きく上回っている。

その他の項目は、現実が理想を下回る傾向。理想と現実にギャップがみられる。

現在仕事をしている人の仕事、家庭生活、地域・個人の生活の優先度

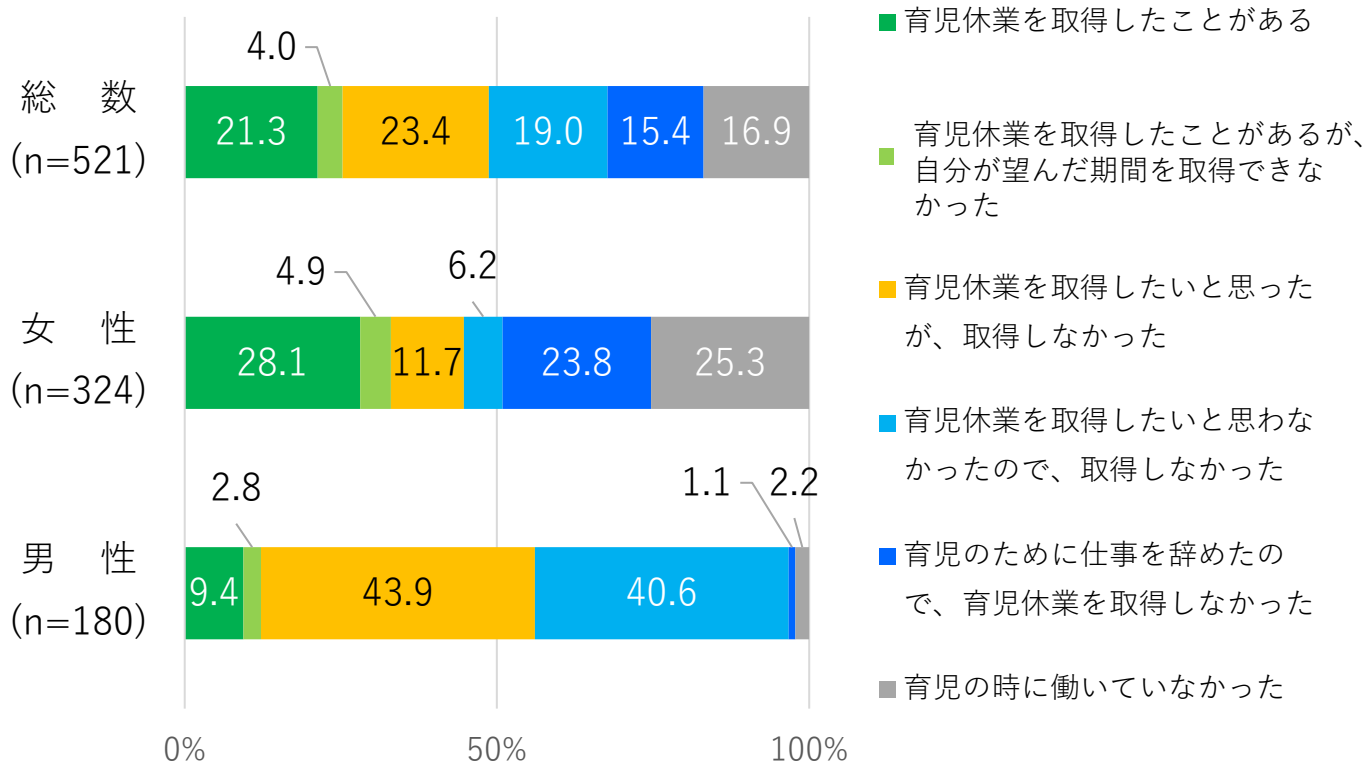


育児休業の取得

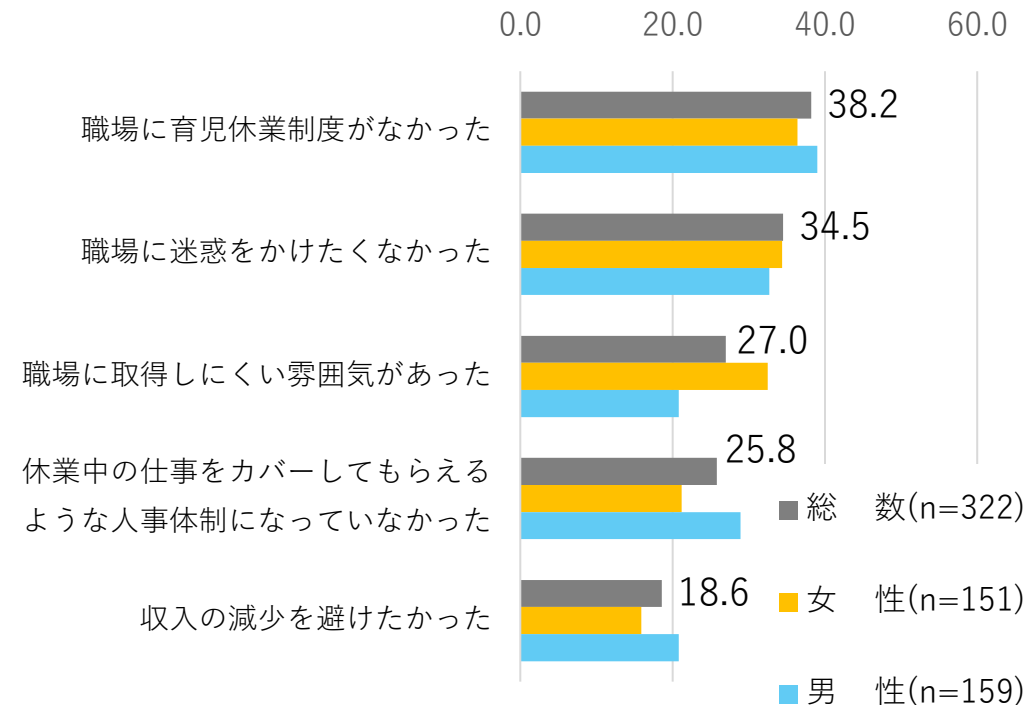
男性は、「育児休業を取得したいと思ったが、取得しなかった」と「育児休業を取得したいと思わなかった」ので、取得しなかった」で8割を占める。

男性が取得しなかった（できなかった）理由としては、「職場に育児休業制度がなかった」、「職場に迷惑をかけたくなかった」、「休業中の仕事をカバーしてもらえるような人事体制になっていなかった」などがあげられた。

育児休業の取得



育児休業を取得しない理由 (上位5項目) (%)

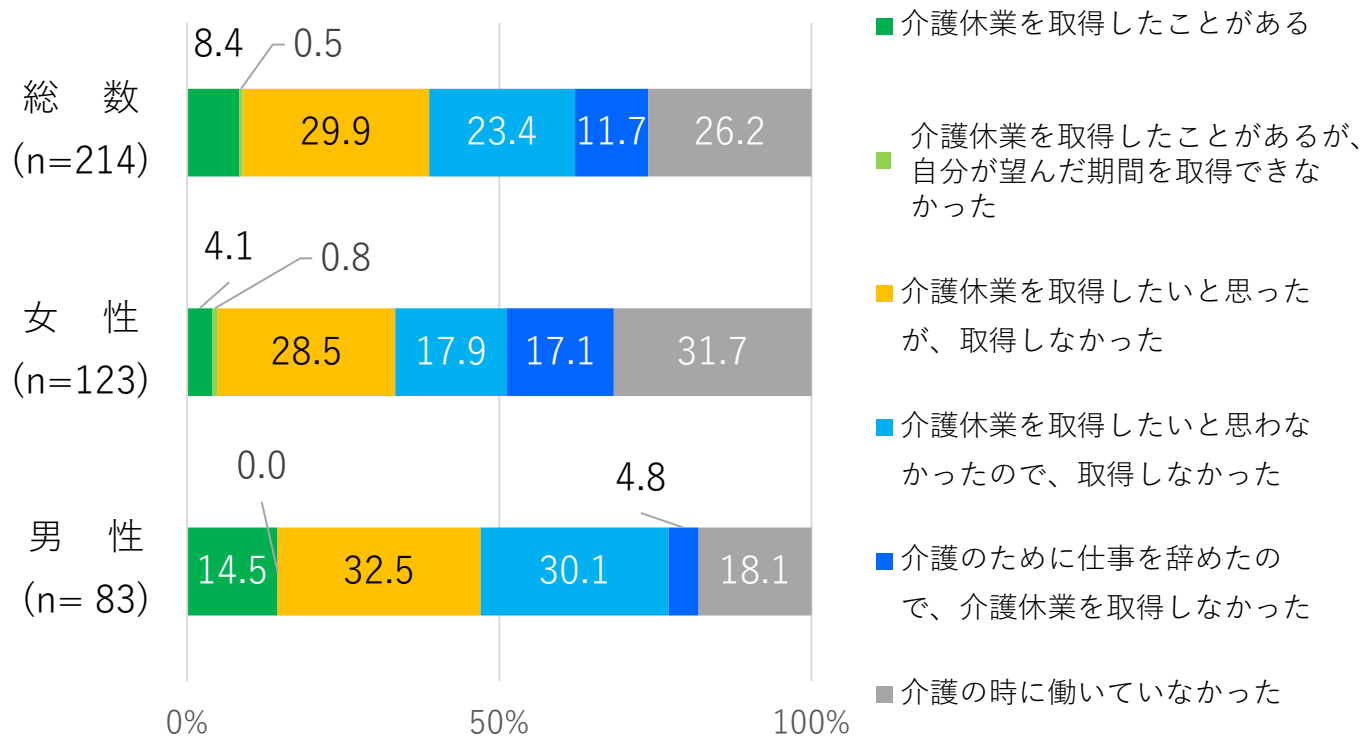


介護休業の取得

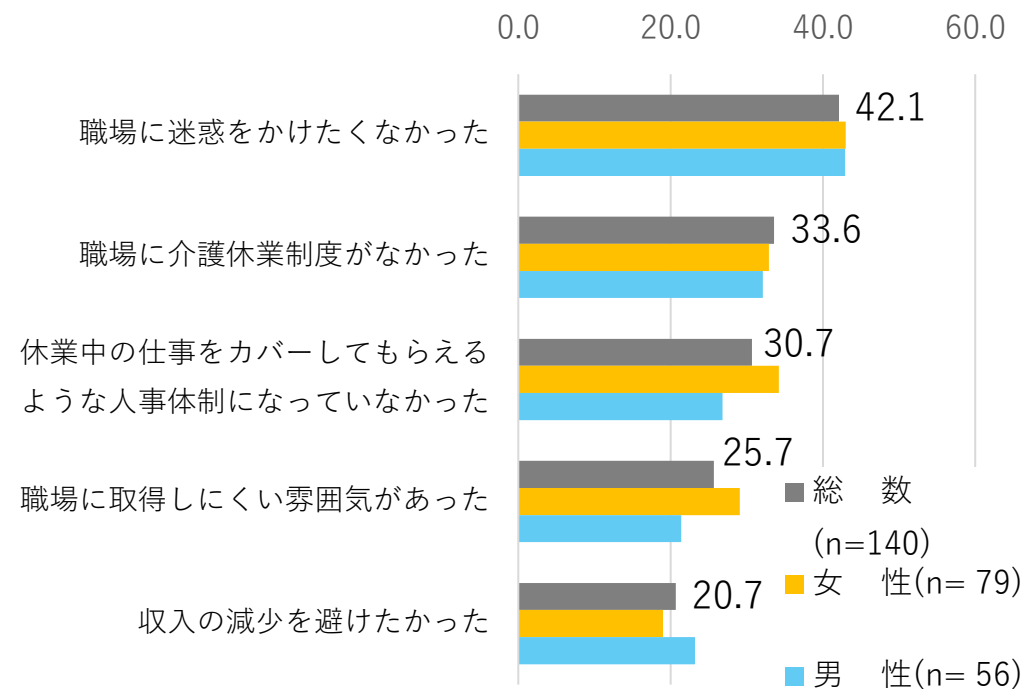
「介護休業を取得したいと思ったが、取得しなかった」が最多。

取得しなかった（できなかった）理由としては、「職場に迷惑をかけたくなかった」、「職場に介護休業制度がなかった」、「休業中の仕事をカバーしてもらえないような人事体制になっていなかった」などがあげられた。

介護休業の取得



介護休業を取得しない理由（上位5項目）(%)



6 性別役割分担に関する意識

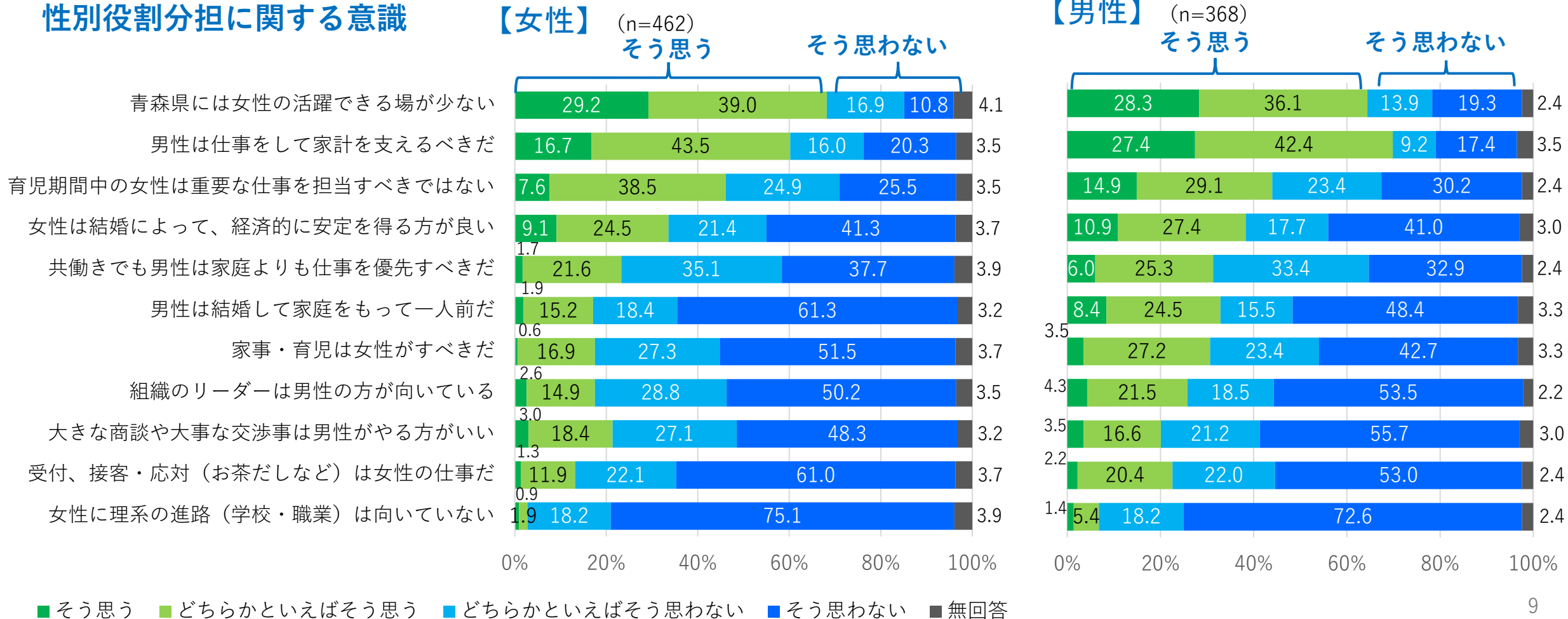
本体 p50~61

性別役割分担に関する意識

『**そう思う**』（「**そう思う**」 + 「**どちらかといえばそう思う**」）が**5割を超えた**のは、「**青森県には女性の活躍できる場が少ない**」、「**男性は仕事をして家計を支えるべきだ**」。

『**そう思う**』とする割合は、女性より男性でより高い傾向となっている。

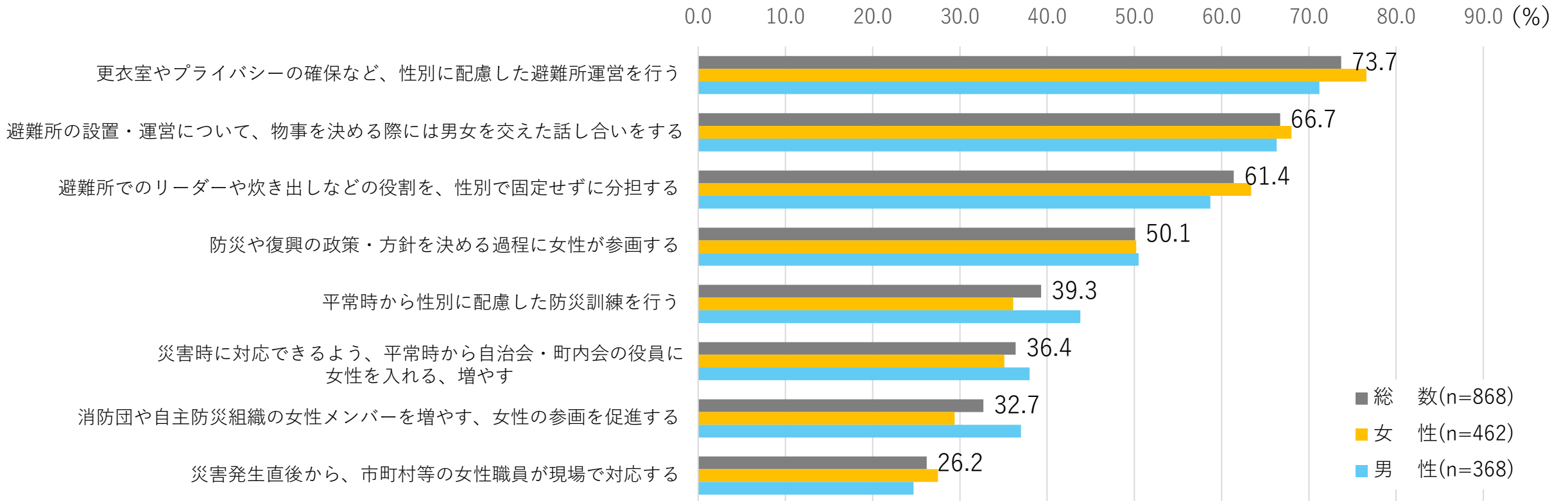
性別役割分担に関する意識



性別に配慮した防災・復興

性別に配慮した防災・災害対応・復興対策のために必要なこととして、
 「更衣室やプライバシーの確保など性別に配慮した避難所運営を行う」、
 「避難所の設置・運営について、物事を決める際には男女を交えた話し合いをする」、
 「避難所でのリーダーや炊き出しなどの役割を、性別で固定せずに分担する」などがあげられた。

性別に配慮した防災・復興に必要なこと



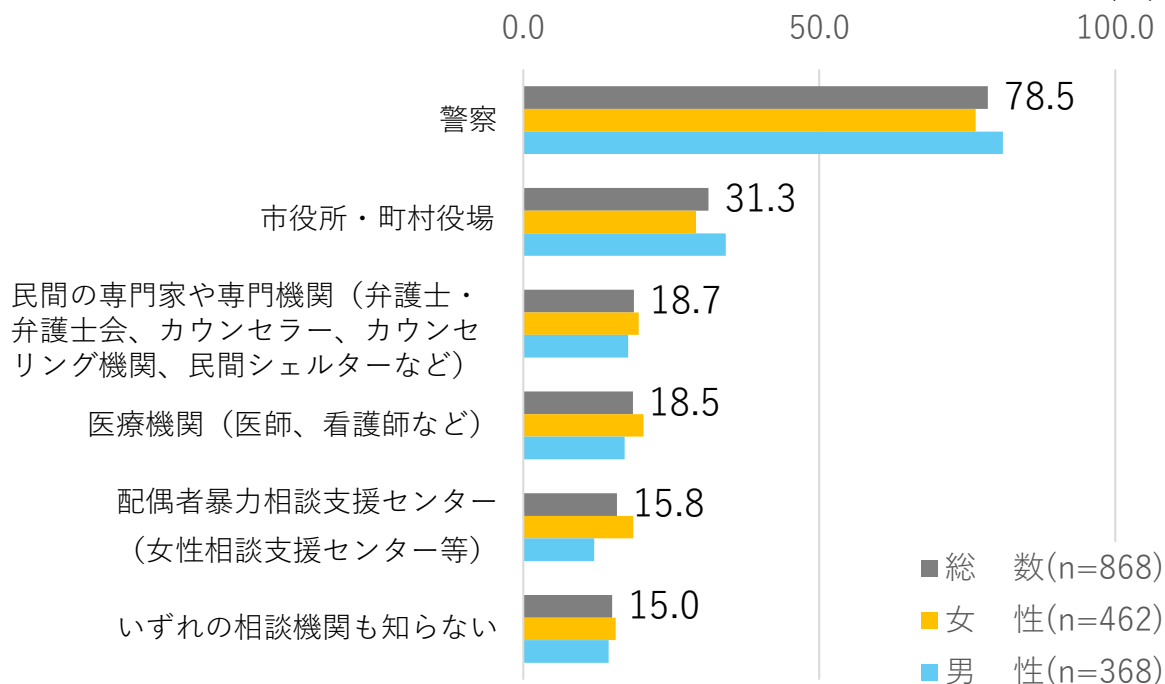
8 配偶者やパートナーからの暴力

本体 p64~67

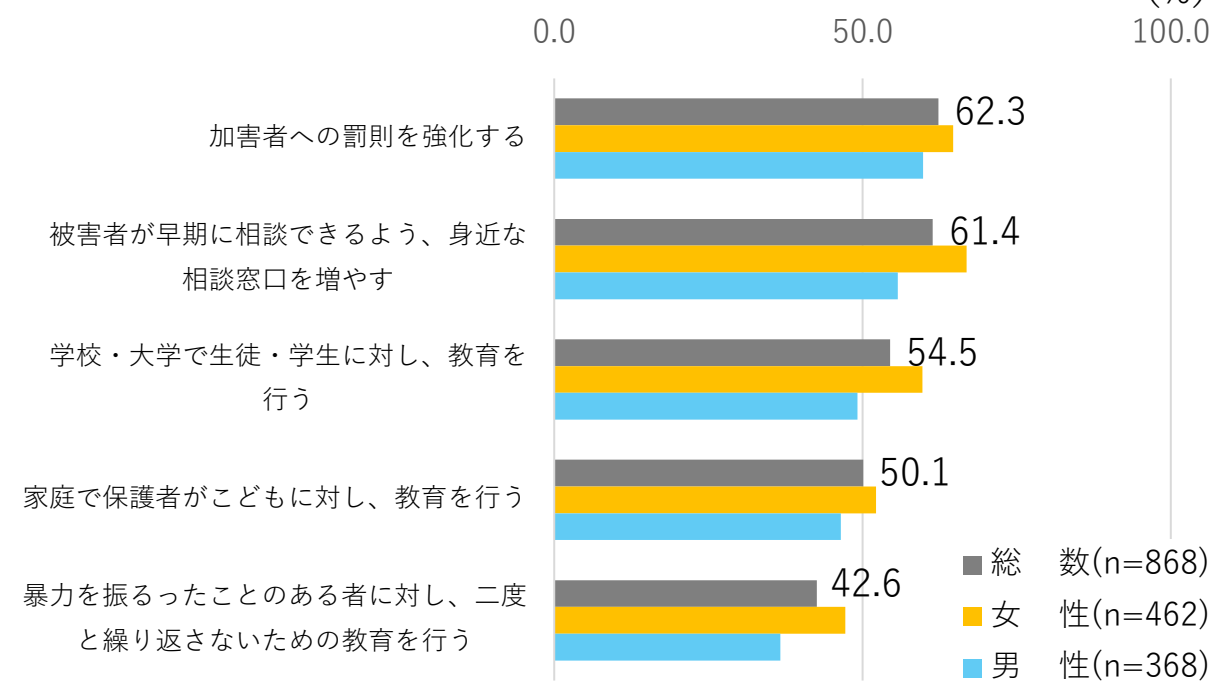
暴力を受けた時の相談機関と防止策

- 配偶者やパートナーからの暴力を受けた時の相談窓口として知っているのは、「警察」が最多。一方で、相談機関を知らない人も一定数存在。
- 暴力防止に必要なこととして、「加害者への罰則を強化する」、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」、「学校・大学で生徒・学生に対し、教育を行う」などがあげられた。

暴力を受けた時の相談機関の認知度（上位6項目） (%)



暴力防止に必要なこと（上位5項目） (%)

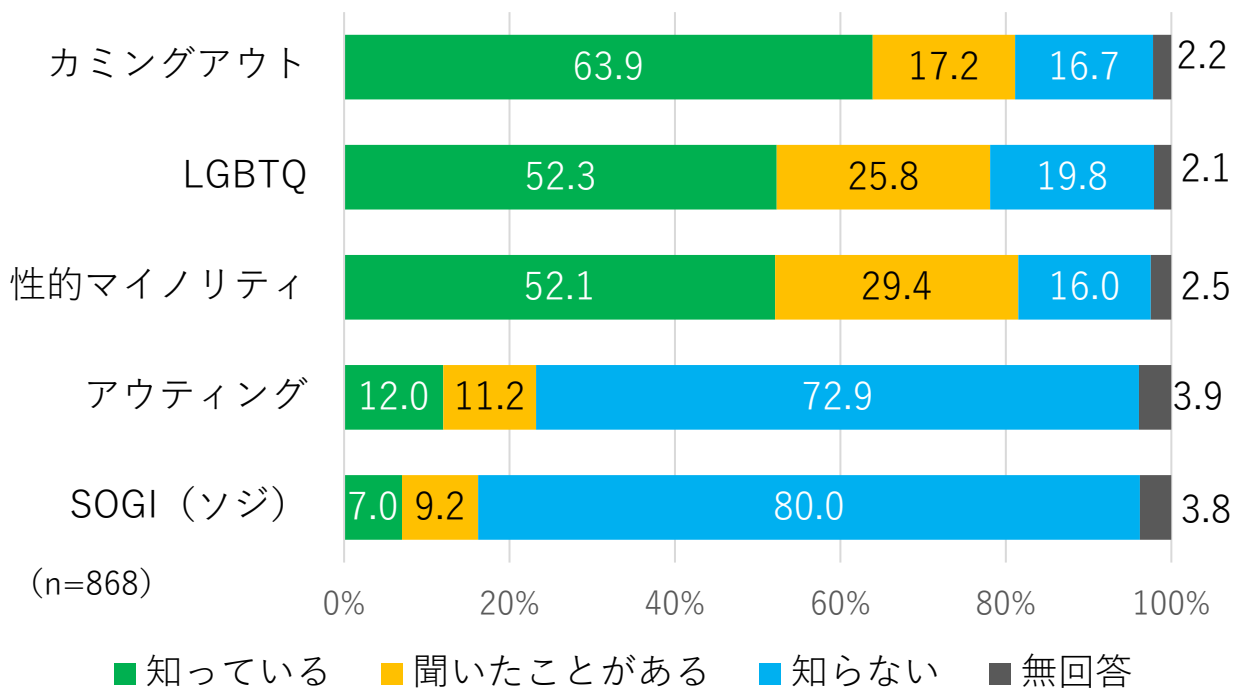


9 性的マイノリティについて

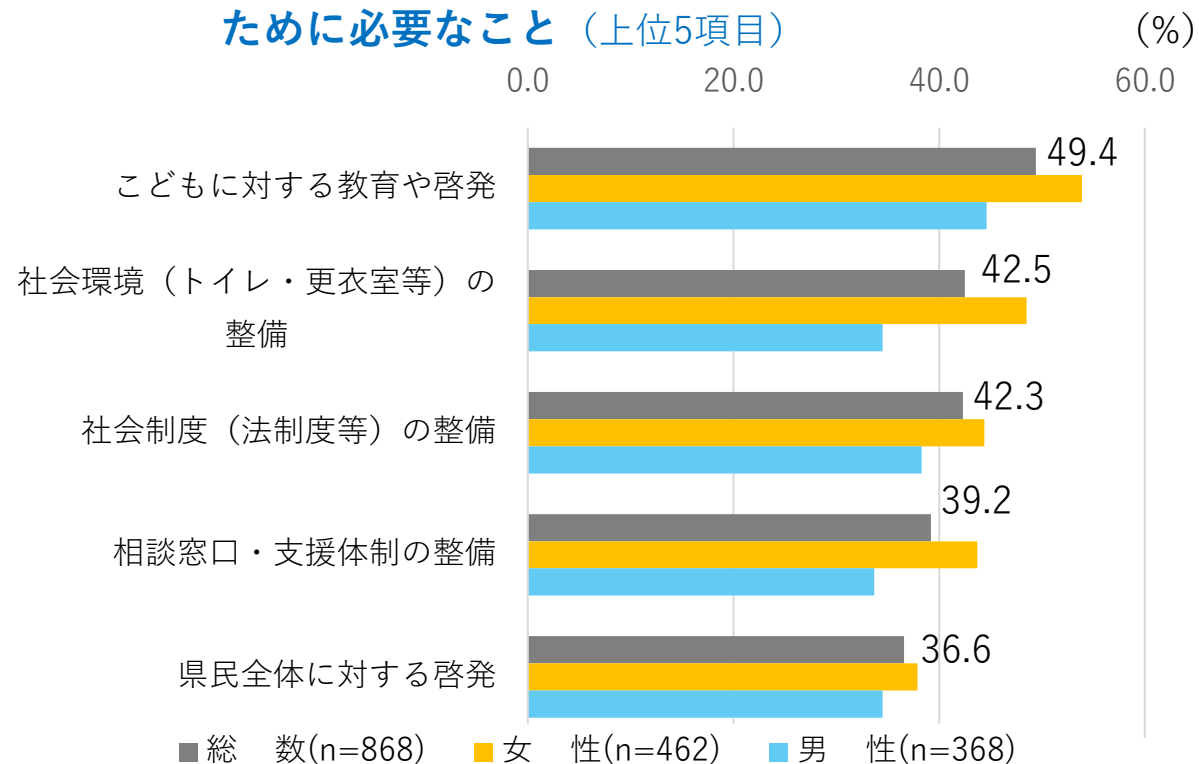
性的マイノリティに関すること

- 「カミングアウト」、「LGBT」、「性的マイノリティ」の用語は認知度が高い。
- 性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要なこととして、「子どもに対する教育や啓発」、「社会環境（トイレ・更衣室等）の整備」、「社会制度（法制度等）の整備」などがあげられた。

性的マイノリティに関する用語



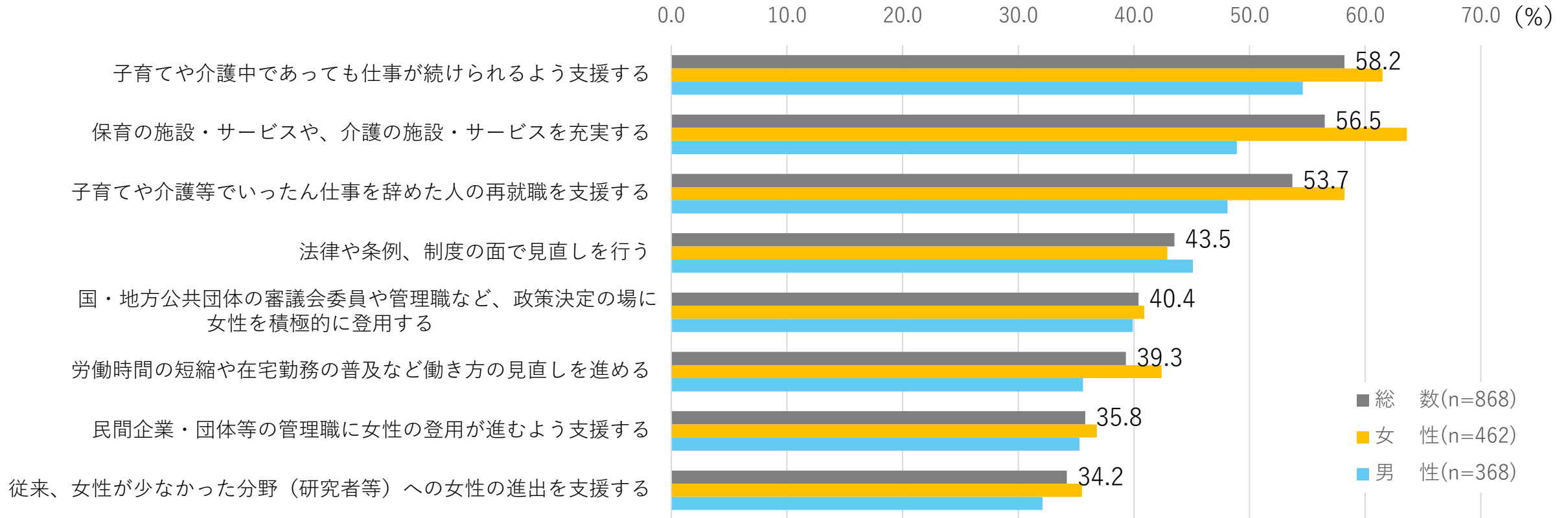
性的マイノリティの方々が生活しやすくなるために必要なこと（上位5項目）



行政に望むこと

男女共同参画社会を実現するために、今後、行政が力をいれていくべきこととして、「子育てや介護中であっても仕事が続けられるように支援する」、「保育の施設・サービスや、介護の施設・サービスを充実する」、「子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」などがあげられた。

男女共同参画に関する行政への要望 (上位8項目)



自分らしく生きることができる社会にしていくために大切なこと

性別にとらわれず、個性や能力が尊重され、自分らしく生きることができる社会にしていくために、何が大切だと思うかについて、自由記述の内容から頻出度の高い単語を可視化。

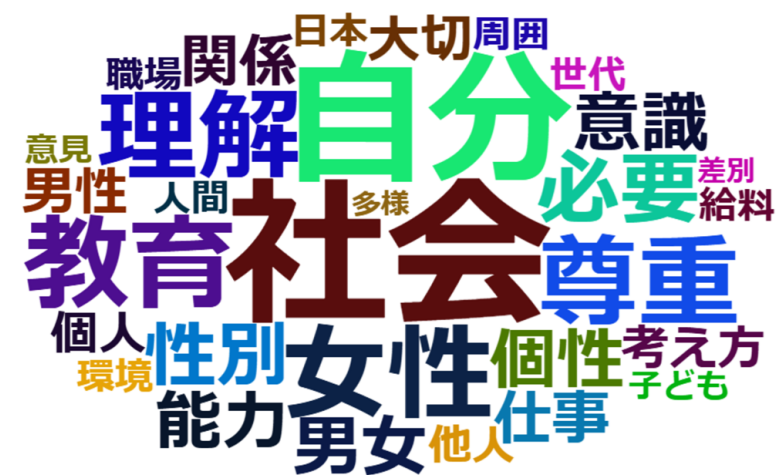
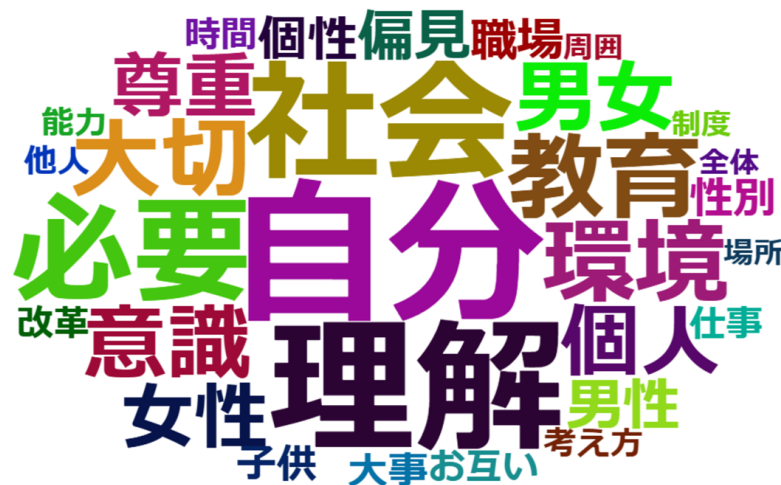
頻出度の高かった単語は、「社会」「自分」「理解」「教育」「必要」。

ワードクラウド 頻出単語

全体

女性

男性



男女共同社会の実現に向けて

「女性は（男性は）こうすべき」という性別役割分担意識について、否定的な意見が大半を占めることが明らかになった一方、「男性は仕事をして家計を支えるべきだ」など、肯定的な意見の方が多い項目も一部にみられ、性別による役割分担意識は依然として根強く残っていることが伺えた。

➡ 引き続き固定的性別役割分担意識の解消に向けた取組を進めることが必要

【分野別の主な課題】

◆ 家庭内での役割分担では、家事・育児・介護のすべてにおいて、理想は「夫婦で同程度」と考える人が多い一方で、現実には「主に妻」が担う構造となり、理想と現実とのギャップが大きい。

➡ 女性に負担が偏っていることから、女性の家事・育児・介護負担を軽減していくことが必要

◆ 育児休業の取得では、職場に制度がなかったことや職場へ迷惑をかけることへの懸念から、取得を断念した男性が多い。

➡ 男性の育児参画を増やしていくためには、必要な時に育児休業を取得しやすい職場環境づくりが必要

今回の調査結果を踏まえ、次期あおもり男女共同参画プランを令和8年度中に策定

調査結果は青森県庁HPでご覧いただけます

<https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kodomo/kenmin/danjoisikityousa.html>

調査にご協力いただいた皆様、ありがとうございました